

教材名		『ふるさと山梨』の章・ページ	
山梨の生活 今と昔をくらべる ～食～		第3章 P. 78, 79	
教科(領域)等	家庭科 総合的な学習の時間	学年(分野)	5年生～6年生

1. 教材のねらいと概要

食の視点から山梨の今と昔を比べ、郷土の食生活に関心を持つ。
 ・昔から受け継がれている郷土食の写真や小学生が調理できる郷土食を掲載している。
 ・山梨県で作られている農産物を地図上に掲載している。

2. 活用例




①

教科名等	家庭科	単元(題材)名等	B 日常の食事と調理の基礎
活用場面	活用のポイント		時間
献立作成, 調理実習の計画等	おかずやみそ汁の味の計画などに地域の食材を活用する。		30分～

②

教科名等	家庭科	単元(題材)名等	B 日常の食事と調理の基礎
活用場面	活用のポイント		時間
長期休業の課題等	・地域で作られる農産物について調べる。 ・授業を生かし、課題を持って簡単な郷土食へチャレンジする。		30分～

3. キャラクターの投げかけの意図と解答

ページ	投げかけの言葉	意図	解答例
P. 78 P. 79 	主食に小麦粉を使ったものが多いのはなぜでしょうか？	郷土食の写真から、山梨の食文化に関心を持つ。	盆地は山に囲まれ、水田が少なく、お米を主食にするのが困難だった。また、富士山のふもとは溶岩流や火山灰のため土地がやせていて稲作が困難であり、畑作が中心だったから。
P. 78 P. 79 	地域の郷土食は、ほかにもあるの？	郷土食調べや、家庭実践につなげる。	おねり、せいだのたまじ等
P. 78 P. 79 	自分の住んでいる地域で昔から作られている農作物について調べてみましょう。	P78の地図を参考に、自分の住んでいる地域で作られている農産物に興味を持つ。	略

4. 写真・資料の補説

(1) ほうとう

平安時代の末期、中国から伝えられた。武田信玄が野戦食として小麦粉をうどん状にして、かぼちゃなどを入れてみそで煮込んだものがほうとうと呼ばれた(諸説あり)。

(2) 吉田のうどん

自家製麺、つゆはみそ&醤油のブレンドが主流。近隣にキャベツの産地があり、キャベツのトッピングがある。トッピングにはその他馬肉やねぎ、かきあげ、きんぴらごぼうなどお店によって様々である。

(3) みみ

富士川町十谷地区で食べられている郷土料理で小麦粉を練り、一口大にして「箕」の形にしたものをすいとんのように味噌味に煮込んだもの。かぼちゃごぼう、大根などを入れる。

(4) おざら

ほうとうと冷や麦の間くらいの太さの冷やした麺を温かいつゆにつけて食べる。つゆの具にはお好みの野菜などを入れる。お米が貴重な時代の夏の暑いときのごちそうとして作られた。

5. 参考文献・関連施設等

参考文献名	発行所	著者・編者	発行年
山梨の郷土食	山梨日日新聞社	依田萬代	2007年
JAこども農業新聞	J A山梨中央会	J Aグループ山梨	2014年
参考ホームページ			
JAやまなし中央会→こども農業新聞→平成25年度版こども農業新聞(参照19, 20, 24年度版)			

教材名		『ふるさと山梨』の章・ページ	
山梨の生活 今と昔をくらべる ～住～		第3章 P. 80	
教科（領域）等	家庭科 総合的な学習の時間	学年（分野）	5年生～6年生

1. 教材のねらいと概要


健康の視点から自然を生かした住まい方の大切さが分かり、より快適な住まい方に関心をもって工夫できるようにする。
 ・山梨の昔と現在の住まいや住まい方の違いをみるため、塩山市にある重要文化財「旧高野家住宅」の写真を掲載している。

2. 活用例

①

教科名等	家庭科	単元(題材)名等	C 快適な衣服と住まい
活用場面		活用のポイント	
快適な住まい方	昔と今の住まいを比べる活動を通して、現在の生活を見直し、日光や風など自然の力を効果的に活用する方法について考えさせる。		時間 30分～

3. キャラクターの投げかけの意図と解答

ページ	投げかけの言葉	意図	解答例
P. 80 	障子が大きく、たくさんあるのはなぜかな？ 2階や3階は何に使っていたのかな？	今の家と違うところを見つけ、その理由を考えさせる。	障子は日光を多く取り入れるため。2～3階は養蚕をしていた。屋根の中央部を前面に突き上げることで、採光と通風を得られるよう工夫がされている。

4. 写真・資料の補説

(1) 旧高野家住宅

19世紀初頭の建築と考えられ、桁行十三間半(24.8m)、梁間六間(10.9m)あり、屋根は大棟を東西に通した切妻造、茅葺型銅板葺で、南面中央部に二段の突き上げ屋根を設けた大型民家。屋根を支える柱は高く棟まで通る棟持柱で、これに梁を重ねて渡した間に見せ貫を通し漆喰塗とした妻壁の構造は、優れた美観を呈している。この棟持柱は、同じく茅葺切妻造民家である「大和棟」や「合掌造」にはみられない、甲州地方の特色を遺憾なく発揮したものである。

5. 参考文献・関連施設等

関連施設名	住所	電話
旧高野家住宅	甲州市塩山上於曾1651番地15	
参考ホームページ		
甲州市→歴史と文化→博物館・資料館→塩山地域→甘草屋敷		